

研究テーマ： ヴィクトリア朝期の写真と文学文化の研究 ルイス・キャロルとアーサー・マンビーを中心に	
研究代表者： 人間文化学部 国際文化学科 准教授 吉本 和弘	連絡先： yosimoto@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：	
<b>【研究概要】</b> 英国ヴィクトリア朝期の写真コレクションとこれを収集した人物を研究し、当時の文学文化あるいは視覚芸術、さらに社会思潮と写真という新しいテクノロジーがどのような関わりを持っていたのかを研究する。 特に、ロンドンのジェントルマン、アーサー・マンビーが遺した写真コレクション（ケンブリッジ大学所蔵）と日記、日誌等の資料、および児童文学作家ルイス・キャロルの写真コレクションと著作物を分析することを通じて考察を行う。最終的にはヴィクトリア朝期の写真と絵画、写真と文学という観点も含んだ、文化研究の著作にまとめる予定である。	

**【研究内容・成果】**

1. ロンドンの大英図書館にてヴィクトリア朝期労働者階級の表象に関する文献資料の収集を行った。
2. リバプールの美術館テイト・リバプールにて開催されていた Alice in Wonderland 展を観て、ヴィクトリア朝の児童文学者で写真家の Lewis Carroll の作品と時代に関わる多くの文献や写真、美術作品などを鑑賞した。



(ルイス・キャロルの写真コレクションより)

3. ケンブリッジ大学トリニティーカレッジ、レン・ライブラリーに保管されている詩人アーサー・マンビーの写真コレクションと日記、手紙等を手に取って閲覧し写真撮影することができた。マンビーと彼のサーバントであったハナ・カルウィックの関係、女性労働者を撮影した写真、および彼の直筆の日誌や手帳、日記等の実物を見ることが出来た。



(マンビー・コレクションより、ヴィクトリア朝期の女性労働者の写真)

4. マンチェスターにて行われた国際学会(2011年11月1日)、After Life of Aliceに参加した。児童文学作品として強力な影響力を持つ Alice's Adventures in Wonderland が現代のポップカルチャーにおいてどのように姿を変えて再現されているかを検討する多くの発表を聴き、各国の研究者と意見交換しディスカッションに参加した。

#### <研究成果>

今回の出張による調査研究の成果の一部は、県立広島大学人間文化学部紀要第7号に発表した論文、「住み込み女中ハナ・カルウィックが観たバイロンの悲劇『サルダナパルス』」にも反映されている。

また平成23年8月に春風社から出版した『イギリス イメージ横断—表象と文学』を出版したが、この中で「アーサー・マンビーの写真コレクション—女性労働者の表象と脱階級のストラテジー」と題する論文を発表した。今回の研究出張によって得た成果を踏まえ、これらの論文からさらに視点を広げ、総合的な研究に広げてゆけるものと思われる。



吉本、要田、田原編著、『イギリス イメージ横断』、春風社、2011年